

巻 頭 言

臨床心理学部 学部長 今井 皖式

京都文教大学臨床心理学部において、2013年度4月からいよいよ教育福祉心理学科がスタートする。何年にもわたり議論を重ね準備に力を尽くして、満を持しての開幕である。この新学科には、子どもの心を深く理解して教育を実践できる小学校教員を養成する「子ども教育心理専攻」と、子どもや保護者の心に寄り添える保育士や、福祉の分野で確かな力を発揮できる精神保健福祉士を育成する「保育福祉心理専攻」の2つがある。いずれの専攻も、本学開学以来の伝統である臨床心理学をベースにしつつ、教育や保育や福祉の分野で、子どもとその親、障がい者、高齢者などに関わる対人援助専門職として、現場で活躍できる人材を育てようというコンセプトと教員の熱い思いで成り立っている。

心理社会的支援研究はこの新学科の紀要となっていくものであり、私たちが臨床の現場で出会う人々の姿、心、生活からの投げかけに真摯に耳を傾け、そこから抽出される真実を研究という形に乗せていく志と努力を結実させたものである。また、それらの人々と支援者との深い心のやり取りを丁寧に取り上げ、これから支援者になりたいと望む学生たちの教育に活かし、その向こう側に存在するさらに多くの人々を間接的に支援しようとするものでもある。そのため、ここに掲載されているどの論文も、既成の研究論文の型を打ち破り、時に挑戦的に、時に懐疑的に、そうでありながらも確かな経験とデータに裏打ちされて議論が展開されており、従来の研究の常識を喝破するエネルギーとダイナミズムに満ちている。近代科学への盲信を退け、人の心の世界を曇りなき目で見ようとするとき、これまでおぼろげにされてきた科学の別の側面が見えてくるのである。

社会が閉塞感に満ちている今こそ、発想を柔軟にして思い切って進むことにより、予想もしなかった新しい展望が開かれる可能性がある。本学新学科および紀要は、そのような進取の精神に満ちたものであり、時代の先駆けを体現しているといっても過言ではないだろう。読者におかれては、ワクワク、ドキドキしながら、お読みいただけること請け合いである。心理社会的支援研究に共感を寄せて頂いたり、批判して頂いたりしながら、多くの皆様との対話を怠らずコミュニケーションの発端となるならば、これに増す喜びはない。